

三重県における成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究

研究分担者：丸山 貴也（国立病院機構三重病院 呼吸器内科）

研究要旨 人口ベースで成人における侵襲性インフルエンザ菌感染症（IHD）、侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）、激症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）を評価する体制を構築することで、IHD、IPD、STSSの罹患率が算定でき、また、IPDの莢膜型の推移を調査することで肺炎球菌ワクチンの有効性を評価し、より適切な予防医療を確立することができる。

A. 研究目的

1. 三重県の全医療機関で発症した成人のIPD、IHD、STSSを評価する体制を構築する。
2. IPD、IHD、STSSと診断された症例の患者情報と菌株を収集し、国立感染症研究所で莢膜型、遺伝子型、薬剤感受性などを精査する。

B. 研究方法

1. 三重県の基幹定点医療機関9施設+1施設については保健環境研究所で菌株、患者情報を一括して収集し、国立感染症研究所へ送付する。
2. それ以外の医療機関については、三重病院で菌株を収集し、国立感染症研究所へ送付する。
(倫理面への配慮)
本研究では、必要な検体は、研究参加前に採取、

保存されている菌株を用いるため、予想される不利益は少ないものと考えられる。

C. 研究結果

平成29年度の三重県在住者のIPDは22例、STSSは4例、IHDは3例であった。IPDの特徴は平均年齢71歳で、男性の頻度が59.1%と高く、莢膜型は3（18.2%）、10A（13.6%）、23A（9.1%）の頻度が高く、肺炎球菌ワクチンのカバー率はPCV13 vs PPSV23=22.7% vs 63.6%であった（図1）。

D. 考察

小児に対するPCV導入（2010年PVC7、2013年PCV13）前、PPSV23のカバー率は約80%、PCV13では約70%と報告されている。三重県の2017年

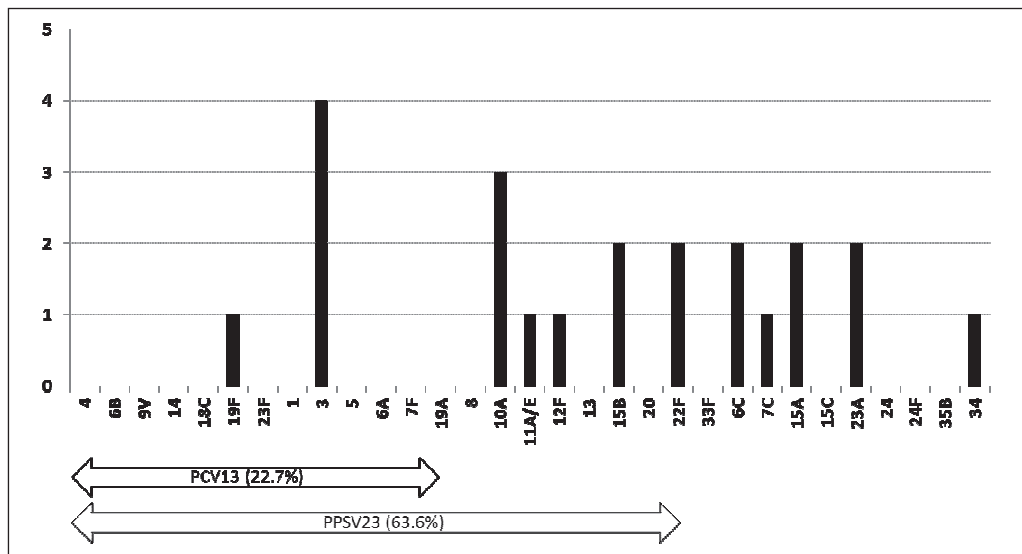


図1. 三重県の成人IPDの莢膜型と肺炎球菌ワクチンのカバー率（n=22）

の結果はPCV13 (22.7%)、PPSV23 (63.6%) で、2016年のPCV13 (54.5%)、PPSV23 (72.7%) と比較し、低下していた。IHD、STSSの症例については症例数は少ないが徐々に集積されており、今後の追跡を要する。

E. 結論

今年度の三重県のIPDは前年度11例と比較し、22例と増加しているが、前年度よりも研究体制が強化され、より厳密な追跡ができていたものと推察される。なお、三重県でのカバー率の低下は、小児PCV13の影響と推察される。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 丸山貴也. 【[春の先ドリ勉強会]わかりにく〜いをスッキリ解決! 肺炎のケアと予防】(Theme 1) 定義と分類 肺炎を場によりどのように分類するのか (CAP・HAP・NHCP), 呼吸器ケア15巻4号, 386-388, 2017.
- 2) 丸山貴也. 【抗菌薬-その常識は正しいか?-】 抗菌薬の選択 その常識は正しいか? 重症市中肺炎にマクロライドは併用すべきか?, 救急・集中治療29巻7-8号, 469-475, 2017.
- 3) 丸山貴也. 【呼吸器感染症治療薬の上手な使い方-症例から紐解く達人の技】 肺炎 医療・介護関連肺炎に対する抗菌薬をどのように選択し使うか?, 呼吸器ジャーナル65巻3号, 443-449, 2017.
- 4) 丸山貴也. 【[春の先ドリ勉強会]わかりにく〜いをスッキリ解決! 肺炎のケアと予防】(Theme 1) 定義と分類 高齢者の誤嚥性肺炎に対する最近の考え方 倫理的側面も含めて, 呼吸器ケア, 15巻4号, 389-390, 2017.
- 5) 丸山貴也. 【これからの肺炎診療 新しいガイドラインで何が変わったのか?】 押さえておきたい肺炎治療の考え方と注意点 院内肺炎/医療・介護関連肺炎のエンピリック治療, 薬事59巻13号, 2607-2612, 2017.

2. 学会発表

- 1) 丸山貴也, 菅 秀, 谷口清州, 藤澤隆夫 免疫抑制患者に対するPCV13とPPSV23の連続接種とPPSV23単独接種の有効性の比較 二重盲検無作為化比較試験, 第71回国立病院総合医学会, 2017.
- 2) 丸山貴也. パネルディスカッション2 「誤嚥性肺炎高齢者肺炎の予防を多職種で考える」 インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの重要性, 第87回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 2017.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得: なし
2. 実用新案登録: なし
3. その他: なし